

第3回戦略会議レポート

2018/6/26 湯沢町役場



“ふるさと納税”を活用した交流人口の拡大策としてふるさとチョイス×雪国観光圏の電子決済・QRコードを使った新しい取組への提案がありました。

清水先生より

国・世界の動き、雪国への提案

■サクラクオリティ 6月12日のプレス発表に観光庁長官からもご出席いただき「インバウンドの邁進には品質認証が不可欠」との発言を頂く。これを受けて観光圏だけでなく、DMO・県単位に一齐に動き出すのでは。

■インバウンドでは再来訪が増えると日本の歴史・伝統・文化を求める色が濃くなる。雪国観光圏にもリピーターが増えている。

■イタリアのアルベルゴディフーズ(集落全体が分散型宿舎となる)の動きに注目が集まっている。

■雪国観光圏の動きについての提案

- ・市町村個別にインバウンド向け滞在プログラムを作ったり、販売するのは大変なので広域でやる。ワンストップサービス・プロモーション等も含めて。
- ・PRには企業との連携を。JRシンガポールのカフェ、成田空港のレールパス引換所など企業と連携しPR、販売促進の強化を図るように。

雪国観光圏の理念

『100年後も雪国であるために』

ひとつずつでは埋もれてしまう地域資源を発掘し、つなぎ合わせ、磨き上げることで世界に通用する価値を生み出す。

雪国観光圏のブランドコンセプト

『真白き世界に隠された知恵に出会う』

議題① 各WGから 進捗報告

■食ブランドWG 岩佐座長

- ・第1回食の学校開催(会場:里山十帖)
- ・6月に食の学校をスタートした理由について
- ・講演 中村孝則氏・A級グルメ参画店の発表

■スノーカントリーレイルWG 田中コースディレクター

- ・9月8日にみなかみにてオープニングイベントを開催。各市町村から首長の出席をお願いします。

■ブランド推進WG 座長フジノ氏

- ・SCF改め、“雪と旅”編集会議に各観光協会よりスタッフが集まり、秋号の検討が行われた。テーマは、米と鍋と汁～旅するガストロノミー～。旅行者が“旅する”のではなく1皿の料理素材がどこから来て、その風土や生産者に思いを向けてみようという内容。

■観光協会連携推進WG 深津座長

- ・相互販売の覚書が完成。リスト化して相互に商品販売を行っていく。販売も大切だが告知も重要で宿にて滞在中に利用できるツアーを閲覧していただけるよう。

■女性コーディネイター研究会 細矢MG

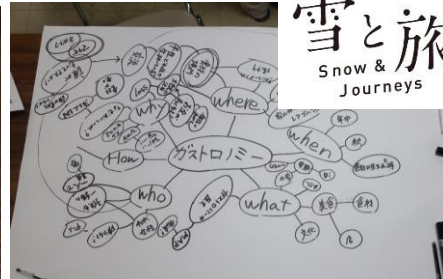
- ・水上～魚沼を縦断する1泊2日ツアーを造成、おとな女子の癒し旅～電車であつなくSNOW COUNTRY～



魚沼食の学校 中村氏×岩佐座長対談



雪国ガストロノミー 今成漬物



企画のタネを探すWS型編集会議

議題②事業計画に基づく進捗状況

■サクラクオリティ(品質認証度) *6月新規訪問数は28軒。
各市町村で事業説明会を開催しますので、候補施設の推薦をお願いします。
ご要望いただいた説明資料および参加申込書を会議資料に添付しています。



井口代表理事より:事業説明はもちろん全体的な戦略や観光圏についてもお伝えしたいので、行政庁舎内等で時間をいただければ訪問して説明します。啓蒙活動を重視していきたいのでご協力ください。

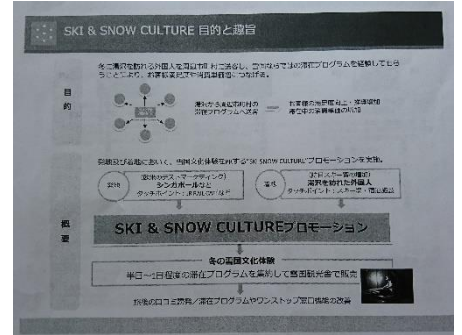
インバウンドPR提案～滞在プログラム提供のお願い～ フジノブランドマネージャー

湯沢に来たお客様をスキー場や宿泊施設で直接セールスし周辺市町村に紹介、雪国文化を体験してもらう。

発地(シンガポール)・着地(湯沢)にて雪国文化のプロモーションを実施。
・シンガポールプロモーション(JRアンテナショップ・カフェを1か月借りてPR)や旅行会社にアプローチを行う。

・着地(湯沢)リーフレット・QRコードで特設サイトに誘導。
観光舎にてワンストップで販売。ガイド手配、2次交通は越後湯沢発着。
雪国文化・食文化・織物文化などに触れる体験を提供する。

■販売するプランの提供のお願い。8月3日締切にてプログラムを集約。
10軒選定し、英訳して10月にプロモーションを行う。



【滞在プログラムの例】

・大根つぐらや雪室見学・かまくら・なじよもん・漬物見学・織物ほか

1月～3月に雪国ならではの体験
ができる半日～1日の滞在プログラム
を提供下さい。(インバウンド向)

H30年度 事業計画 井口代表理事

定額補助のマーケティング調査は、100%観光庁補助で行い推進協の予算は使わない。No.2～9が定率補助で今年は1/2なので補助率は上がったが、対象がインバウンドプロモのみになり制約がある。(詳細は議事録)

No.1～4は推進協議会事業。5は松之山のまま負担、6～9は各企業や観光協会支援事業。

インバウンドプロモーションにおいて観光圏を活用しながら連携ができないか。観光圏の役割もインバウンドを中心に作っていく。まず売れる冬に目に見えるテーマを出していく。

第四銀行と連携協定 小野上席調査役

6月22日付で第四銀行と雪国観光圏で、観光振興に関する連携協定を締結した。
サクラクオリティ・A級グルメ等の普及を県内各支店でもお手伝いできればと考えている。ゆくゆくはツアーや旅行商品販売などもお手伝いしたい。
日本橋ブリッジ新潟などをPRに活用いただいたり、銀行2階会議室などを会議などにご利用いただければと思う。

→井口代表理事:どんな形でというのは議論していく。サクラクオリティやA級グルメは金融機関からお声がけいただく方が納得しやすいのではというもあり、事業啓発やセミナー案内にご協力いただく。

ふるさと納税(ふるさとチョイス)×雪国観光圏で作る新しい取組提案



所得税住民税の一部を他の自治体に納税。返礼品には納税額の約3割が使われる。例えば年収500万円で5万円納税した場合、2000円引いた48000円のうち約3割、14000円位の品が届く。ふるさとチョイスでは1300の自治体、利用者200万人を超える会員を持ち、地域に人を送る仕掛けとして電子感謝券を提供する。雪国観光圏の7市町村には既に取引があり、湯沢町では紙の感謝券を発行。単独市町村ではなく広域で連携し、QRコード・スマホ決済で電子化し交流観光の促進をはかるのが今回の案内。

アプリを通じ地域を楽しむ手伝い、現地情報(コミュニケーション、接触頻度、情報)が提供できる。費用面では納税の一部を運用手数料とし3割寄付者・運用手数料・自治体には5割残る。

→行政内で担当が異なるので担当につなぎ、検討していただく。

*次回戦略会議は、7月31日(火)13時30分～湯沢町役場で開催です。

連絡先:一般社団法人雪国観光圏事務局
新潟県南魚沼郡湯沢町大字湯沢2431-1
TEL025-785-5353 FAX025-785-6767